

令和7年度 大野市教育方針

大野市教育委員会

目 次

1 大野市教育理念	1
2 教育方針策定の趣旨	1
3 目指す姿と施策、主な事業と成果指標	
子育て	2
学び	6
ひと・地域	17
文化芸術	21

1 大野市教育理念（教育に関する大綱の基本理念）

明倫の心を重んじ 育てよう 大野人

人としての生きる道を明らかにし、進取の気象¹を育てた明倫²の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切に、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、学び、育てることに努めていきます。

（大野市教育理念 平成21年3月策定）

2 教育方針策定の趣旨

大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を普遍のバックボーンとして、優しく、賢く、たくましい大野人を育てるため、大野市の特色を十分に生かし、大野らしさが生きる教育を進めます。

大野市の人口規模や立地条件および大野市の持つ人情の厚さ、自然の豊かさ、歴史の深さなど、その長所を十分に生かすとともに、国際化社会や高度情報化社会の進展など変化の大きい社会に対応することができる人を育てる教育を推進するため、必要な事項を定めた「教育に関する大綱」に示された「基本理念」「趣旨」「目指す姿と施策」に沿って教育行政を進めます。

本方針は、「教育に関する大綱」のうち「子育て」「学び」「ひと・地域」「文化芸術」の四つの「目指す姿と施策」で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に規定されている教育委員会の職務権限で管理、執行する事務について、主な事業と成果指標を明確にするものです。

また、令和3年度から教育委員会事務局が所管することとなった子育て支援に関する施策についても、令和6年度に策定した「大野市こども・若者計画」に基づいて実施する主な事業と成果指標を掲載しています。

その他、本方針は、新たな3つの視点³（ウェルビーイング、シェアリングエコノミー、ジェンダーギャップの緩和）についても念頭に置き、各事業の取組みを進めます。

なお、成果指標のうち令和6年度実績値は令和7年3月31日現在の数値を掲載しています。

¹ 進取の気象 進んで新しいことに取り組む気持ちがあること。

² 明倫 孟子の「皆人倫（じんりん）を明らかにする所以（ゆえん）なり」という言葉に由来するもので、「倫」の文字には「人間同士のきちんと整理された関係」という意味があり、人として守り、行うべき道を明らかにすること。

³ 新たな3つの視点 裏表紙に各視点の意味を記載しています。

子育て



目指す姿

安心して結婚・出産・子育てができ、すべての子どもたちが夢を持って笑顔で健やかに育つまち

(1) 結婚から子育てまで切れ目のない支援体制を確立します

①子どもの見守りや預かりなど、地域ぐるみの子育てを支援します。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
児童福祉総務事務経費 (こども支援課)	子ども・子育て会議において、第2期子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の実施状況や実績を点検・評価する。 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査を実施する。	第2期子ども・子育て支援事業計画の推進 ○実績 令和4年度 計画の中間見直し完了 令和5年度 第3期計画策定に向けたニーズの把握 令和6年度 第3期計画「大野市こども・若者計画」策定 ○目標 令和7年度 第3期計画「大野市こども・若者計画」に基づく施策の推進
地域子育て支援センター管理運営経費 (こども支援課)	地域の子育て拠点として、親子が気軽に集える場の提供や子育てに関する相談指導などを行い、子どもの健やかな育ちを支援する。	地域子育て支援センターの延べ利用者数 ○実績 令和4年度 7,201人 令和5年度 7,931人 令和6年度 6,371人 ○目標 令和7年度 13,078人

子育て交流ひろば事業 (こども支援課)	親子の交流場所として、子育てマイスターによる相談指導や子育て関連イベントを実施し、安心して子育てができる環境を整える。	子育て交流ひろば ちっく・たっくの延べ利用者数 ○実績 令和4年度 4,977人 令和5年度 5,395人 令和6年度 5,444人 ○目標 令和7年度 9,742人
結婚世帯応援事業 (こども支援課)	新婚世帯に対して住居費や引越費用を補助する。併せて、29歳以下または25歳以下の早婚夫婦に対して祝金を支給する。 若者の交流促進を図るため、市内の事業所などの若者が集まり、若者の自身で交流促進について話し合う場をつくる。	若者の交流促進に向けた話し合い回数 ○目標 令和7年度 4回

(2) 保護者のニーズに応じた子育てサービスを提供します

- ①子どもの人権を尊重した質の高い保育・幼児教育を提供するとともに、保育士や保育教諭などのさらなる資質と専門性の向上を図ります。
- ②子育てにかかる経済的な負担を軽減する取り組みや子育て情報の発信など、保護者のニーズに沿ったサービスを充実します。
- ③放課後児童クラブや放課後子ども教室など、子どもたちの放課後の居場所を確保します。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
3人っ子給食費助成事業 (教育総務課)	保護者の経済的な負担軽減を図り、子育てを支援する。	○実績 令和6年度 認定者数 小学校 199人 中学校 79人
保育所管理運営経費 民間保育所等運営費 (こども支援課)	公立保育所及び民間認定こども園において、乳幼児に適正な教育・保育を提供することで、就労形態の多様化、家庭環境の変化などに伴う、多様な保育ニーズへ対応する。	市内保育所等における待機児童数 ○実績 令和4年度 0人 令和5年度 0人 令和6年度 0人 ○目標 令和7年度 0人

一時預かり・延長保育事業 (こども支援課)	保護者の就労や冠婚葬祭などにより、緊急又は一時的に家庭における育児が困難となった児童を預かり、保育を行う。 保護者の就労形態や残業など、やむを得ない事情がある場合に、保育時間を延長して保育を行う。	市内保育所等における実施率 ○実績 令和4年度 100% 令和5年度 100% 令和6年度 100% ○目標 令和7年度 100%
子ども医療費助成事業 (こども支援課)	高校3年生までの児童生徒及び県内の大学や専門学校などに通う20歳までの学生の医療費(保険適用分)を助成する。	医療対象者の認定率(※高校3年生まで) ○実績 令和4年度 100% 令和5年度 100% 令和6年度 100% ○目標 令和7年度 100%
子育てライフサポート事業 (子育て応援チケット) (こども支援課)	家事援助、一時預かり、リフレッシュサービスが利用できる子育て応援チケットを配付する。(妊婦、産後ママ、家庭育児応援手当受給者、特別児童手当受給者)	チケット活用率 ○実績 令和4年度 5.1% 令和5年度 31.6% 令和6年度 61.6% ○目標 令和7年度 70.0%
子育てライフサポート事業 (子育てぴったりサポート) (こども支援課)	保護者の疾病や就労など、やむを得ない事由により一時的に児童を養育できない保護者と、出産予定妊婦に対し、一時預かり(預かり型、訪問型)と家事援助を実施する。	利用者延べ人数 ○実績 令和4年度 7人 令和5年度 177人 令和6年度 315人 ○目標 令和7年度 230人
病児デイケア事業 (こども支援課)	子育てと就労の両立を支援するため、市内における病児デイケア事業の受託施設を確保する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 81人 令和5年度 165人 令和6年度 138人 ○目標(受託施設) 令和7年度 1施設

児童センター管理運営経費 (こども支援課)	児童への遊びの指導、健康増進に関する取り組みを実施し、児童の健全育成を図る。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 1,641人 令和5年度 7,731人 令和6年度 9,252人 ○目標 令和7年度 8,000人
放課後児童クラブ事業 (こども支援課)	共働き家庭などの児童に対して、放課後等に適切な遊び及び生活の場を提供し、健全育成を図る。 長期休業中には、放課後子ども教室との交流事業を実施する。 小学校の余裕スペースを活用した放課後児童クラブの実施に向け、学校施設における運営方法を検討する。 併せて、サービスの標準化を目指し、放課後児童クラブ支援員と放課後子ども教室安全管理員の人事交流を実施する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 20,678人 令和5年度 24,889人 令和6年度 27,933人 ○目標 令和7年度 22,500人
放課後子ども教室事業 (生涯学習・文化財保護課)	公民館などで放課後における小学生の安全で安心な居場所づくりを行うとともに、地域の大人たちが学習や体験・交流活動を行い、地域の子どもたちを見守る。 長期休業中においては、放課後児童クラブなどと連携し、子どもの居場所づくりを行う。 小学校の余裕スペースを活用した放課後子ども教室の実施を検討する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 21,470人 令和5年度 25,692人 令和6年度 26,659人 ○目標 令和7年度 26,000人
屋内型こどもの遊び場管理運営経費 (こども支援課)	子どもたちが天候にかかわらず楽しく遊び、子育て世代がまちなかで交流できる「おおの天空パークO S O R A」の運営を通して、子どもの健全な育成及び安心して子育てができる環境の充実を図る。	延べ利用者数 ○実績 令和7年1月供用開始 (1月～3月 16,777人) ○目標 令和7年度 41,200人

(3) サポートを必要とする子どもと家庭を支援します。

上記の施策項目については、教育に関する大綱との整合性を図り、「学び」の「(1) やさしく賢くたくましい大野人を育てます」の⑤に統合し、「主な事業及び成果指標」も同様に統合することとします。



目指す姿

子どもたちの確かな学力や夢に挑戦する力、ふるさとを愛する心を育むまち

(1) 優しく賢くたくましい大野人を育てます

- ①ふるさと大野の未来を創造する力と、自己の生き方について考える力を育てるために、さまざまな学習や体験を充実します。
- ②確かな学力を身につけるため、国や県、市の学力調査を活用した授業改善を行います。
- ③情報活用能力や論理的思考力を育成するために、タブレット端末などのICT機器を効果的に活用します。
- ④安心して通える魅力ある学校をつくるために、いじめや不登校への対策を充実するとともに、障がいや多様性を個性として受け入れる教育を推進します。
- ⑤発達に気がかりのある子どもや障がいのある子ども、要保護児童、ひとり親家庭などに対し、関係機関が連携して専門的な支援を提供します。
- ⑥家庭や学校、地域が一体となって、青少年の安全確保と健全育成を行うための環境づくりを促進します。
- ⑦親が子育てについて考え、学ぶことのできる機会をつくるとともに、親子が一緒に取り組み、親子の絆を深めることができる活動を実施します。
- ⑧子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに読書の習慣化を促すため、図書館と学校との連携を進め、学校や認定こども園などへの図書館司書や読み聞かせボランティアの派遣を行います。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
コミュニティ・スクール推進事業 (教育総務課)	保護者や地域住民などの学校運営への参画を推進するため、法律に基づく学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を各小中学校に設置、学校と保護者、地域住民などとの信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。	「学校が楽しい」と答えている児童生徒の割合 ○実績 令和4年度 小学生：91.7% 中学生：92.9% 令和5年度 小学生：91.9% 中学生：91.2% 令和6年度 小学生：91.1% 中学生：94.0% ○目標 令和7年度 小学生：95.5% 中学生：91.5% ※関連事業 ・魅力ある学校づくり推進事業 ・結の故郷教育相談員配置事業 ・結の故郷教育支援員配置事業 ・いじめ防止対策事業 ・スクールソーシャルワーカー配置事業 ・適応指導教室事業
先輩に学ぼうアートドリーム事業 (教育総務課)	大野市にゆかりのあるアーティストが小中学校を訪問し、講師として指導・実演し、児童生徒が文化芸術の世界に触れ本物に出会うことにより、豊かな心の醸成を図る。	アンケートに「よかった」「どちらかといえばよかった」と答えている児童生徒の割合 ○実績 令和5年度 小学生：97.0% 中学生：91.0% 令和6年度 小学生：97.0% 中学生：99.4% ○目標 令和7年度 小学生：97.0% 中学生：91.0% ※令和5年度までは、『「学校が楽しい」と答えている児童生徒の割合』を成果指標として設定（他事業参照）

ふるさと大野かがやき隊事業 (教育総務課)	児童生徒が自らの地域の自然や文化、歴史などについて学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさとに誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。	地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査) ○実績 令和4年度 小学校：66.8% 中学校：49.2% 令和5年度 小学校：81.6% 中学校：70.8% 令和6年度 小学校：83.6% 中学校：69.8% ○目標 令和7年度 小学校：84.0% 中学校：73.0%
結の故郷教育相談員配置事業 (教育総務課)	児童生徒の気軽な相談相手となり、心のストレスを和らげることで、不登校を未然に防ぐ。	1,000 人当たりの不登校児童生徒数 ○実績 令和4年度 小学生：10.9 人 中学生：37.0 人 令和5年度 小学生：15.5 人 中学生：41.9 人 令和6年度 小学生：15.0 人 中学生：29.3 人 ○目標 令和7年度 小学生：4.8 人 中学生：16.3 人
結の故郷教育支援員配置事業 (教育総務課)	発達障害などを抱えた児童生徒が、円滑な学校生活を送ることを支援する。	
適応指導教室事業 (教育総務課)	不登校の児童生徒や学校生活に適応が困難な児童生徒に対し、相談支援や学習支援を行う。	
魅力ある学校づくり推進事業 (教育総務課)	児童生徒にとって、学びたい・通いたいと思える魅力ある学校づくりを行うため、各学校の特色を生かした授業の実施、不登校や問題行動などの未然防止及び魅力ある教員の育成に取り組む。	
スクールソーシャルワーカー配置事業 (教育総務課)	児童生徒を取り巻く環境を改善するため、スクールソーシャルワーカーを配置する。	

いじめ防止対策事業 (教育総務課)	いじめ相談カウンセラーを配置し、相談などの対策を行うとともに、いじめ問題対策会議やいじめ・不登校防止対策連携会議において関係機関と連携することで、未然防止や早期発見、早期解決を図る。 ※「いじめ解消の3要件」を満たす必要があることから、年度に関係なく経過を観察して解消率100%を目指します。 【いじめ解消の3要件】 ・いじめ行為が止んでいる状況が、少なくとも3か月継続していること。 ・被害児童生徒本人が、いじめによる心身の苦痛を感じていないと認められること。 ・被害児童生徒本人、保護者、学校の三者が「いじめが解消した」と考えていること。	いじめ解消率 ○実績 令和4年度 小学生：67% 中学生：80% 令和5年度 小学生：82% 中学生：75% 令和6年度 小学生：74% 中学生：50% ○目標 令和7年度 小学生：100% 中学生：100%
大野市学力調査事業 (教育総務課)	学力調査を実施し、児童一人一人の学力の定着を客観的に判断し、調査結果を授業改善に生かして個に応じた指導を行うことで、確かな学力の向上を図る。	全国学力・学習状況調査の市平均値と県平均値の比較 ○実績 令和4年度 県平均と同等 令和5年度 県平均と同等 令和6年度 県平均と同等 ○目標 令和7年度 県平均と同等
国際理解教育推進配置事業 (教育総務課)	国際理解教育推進員（ネイティブ・スピーカー）から、英語の生の発音を聞いて会話することや外国の文化などを伝え聞くことで、英語に慣れ親しみ国際感覚を身に付けた児童を育成する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 1,165人 令和5年度 1,521人 令和6年度 1,650人 ○目標 令和7年度 1,260人
児童デイサービスセンター管理運営経費 (こども支援課) ※「子育て(3)①」より	児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業、保育所等巡回発達相談事業を実施する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 1,165人 令和5年度 1,521人 令和6年度 1,650人 ○目標 令和7年度 1,260人
医療的ケア児受入事業 (こども支援課・教育総務課) ※「子育て(3)①」より	日常的に医療的ケアが必要な就学前の児童を、公立の「あかね保育園」で受け入れる。 医療的ケア児が小学校において他の	希望者の受入率 ○実績 令和4年度 100% 令和5年度 100%

	児童と共に教育を受けられるよう支援を行う。	令和6年度 100% ○目標 令和7年度 100%
要保護児童対策事業 (こども支援課) ※「子育て(3)①」より	要保護児童の適切な保護、要支援児童及び特定妊婦に対して適切な支援を行う。併せて、専門的な知識や高度な対応を必要とする場合は、児童相談所につなげる。	相談・通報等対応率 ○実績 令和4年度 100% 令和5年度 100% 令和6年度 100% ○目標 令和7年度 100%
子ども食堂見守り支援事業補助 (こども支援課) ※「子育て(3)①」より	子ども食堂実施団体を支援することにより、支援を必要とする子どもや家庭の状況を把握し、見守り体制の強化を図る。	子ども食堂開催日数 ○実績 令和4年度 46日 令和5年度 74日 令和6年度 81日 ○目標 令和7年度 96日
こども家庭センター管理運営経費 (こども支援課)	全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへ児童福祉と母子保健の一体的な相談支援を行う。	相談等対応率 ○実績 令和6年度 100% ○目標 令和7年度 100%
いきいきわくわく学習事業 (生涯学習・文化財保護課)	「大野市生涯学習推進計画」に基づき、子どもから大人までの全ての市民を対象に、生涯学習に関するさまざまな講座を、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館、職業訓練センターにおいて実施する。 併せて、人材活用登録指導者の育成・登録に取り組むとともに、生涯学習スタンプカードを普及させ、受講回数増を図る。	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 1.02回 令和5年度 1.80回 令和6年度 1.89回 ○目標 令和7年度 1.45回 市民1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 0.67回 令和5年度 0.88回 令和6年度 0.74回 ○目標 令和7年度 1.00回

子どもの読書活動推進事業 (生涯学習・文化財保護課)	「第四次大野市子ども読書活動推進計画」を推進するため、気軽に本に触れることができる読書環境や蔵書の充実、人材の育成などを行う。 また、子どもに対する「読書のバリアフリー化」として、障がいのある子どもや配慮が必要な子どもの読書活動の推進について検討し、対応を図る。	ブックスタート開催数及び受講率 ※当該年度の12月31日までに満2歳を迎える子の受講率 ○実績 令和4年度 19回 66% 令和5年度 23回 65% 令和6年度 27回 96% ○目標 令和7年度 28回 96%
放課後児童クラブ事業 [再掲：子育て(2)] (こども支援課)	共働き家庭などの児童に対して、放課後等に適切な遊び及び生活の場を提供し、健全育成を図る。 長期休業中には、放課後子ども教室との交流事業を実施する。 小学校の余裕スペースを活用した放課後児童クラブの実施に向け、学校施設における運営方法を検討する。 併せて、サービスの標準化を目指し、放課後児童クラブ支援員と放課後子ども教室安全管理員の人事交流を実施する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 20,678人 令和5年度 24,889人 令和6年度 27,933人 ○目標 令和7年度 22,500人
放課後子ども教室事業 [再掲：子育て(2)] (生涯学習・文化財保護課)	公民館などで放課後における小学生の安全で安心な居場所づくりを行うとともに、地域の大人たちが学習や体験・交流活動を行い、地域の子どもたちを見守る。 長期休業中においては、放課後児童クラブなどと連携し、子どもの居場所づくりを行う。 小学校の余裕スペースを活用した放課後子ども教室の実施を検討する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 21,470人 令和5年度 25,692人 令和6年度 26,659人 ○目標 令和7年度 26,000人

(2) 児童生徒の教育環境を整えます

- ①未就学時から高等学校までをつなぐ教育の仕組みづくりに取り組みます。
- ②一定規模の学習集団による教育を実現するため、小中学校の再編を進めます。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
幼・小・中・高等連携推進事業 (教育総務課)	18年をつなぐ教育を推進するため、保育所・認定こども園、小学校、中学校、高校、行政などの関係者が一堂に会する教育講演会や連携会議を通じ、互いの取り組みを理解し情報を共有することで、連携の強化を図る。	連携会議の実施回数 ○実績 令和4年度 8回 令和5年度 8回 令和6年度 8回 ○目標 令和7年度 8回
小中学校再編計画推進事業 小中学校施設改修事業 (教育総務課)	小中学校の適正規模化を図り、児童生徒の最適な学習環境の整備を着実に進める。 また、児童生徒の学校生活・学習環境の充実や脱炭素化、放課後の子どもの居場所づくりなどを目指すため、学校施設を改修する。	大野市小中学校再編計画の推進 ○実績 令和6年度 中学校を再編 R8の小学校再編の方針を決定 ○目標 令和7年度 R8の小学校再編を推進
【臨時】小中学校体育館空調整備事業 (教育総務課)	児童生徒の熱中症対策や災害時に避難所として活用する際の生活環境改善のため、体育館への空調設備導入に向けた調査及び検討を行う。	小中学校体育館への空調設備の設置 ○目標 令和7年度 体育館の基礎調査による空調導入方式の決定
学校運営支援員・部活動指導員配置事業 (教育総務課)	教員の業務負担の軽減を図るために学校運営支援員や部活動指導員を配置し、教員が児童生徒の指導や教材研究などに注力できる体制を構築する。	時間外勤務月80時間以上の教員の人数(年間平均) ○実績 令和4年度 小学校:0.4人/月 中学校:0.9人/月 令和5年度 小学校:0人/月 中学校:0.4人/月 令和6年度 小学校:0.2人/月 中学校:0人/月 ○目標 令和7年度

		小学校：0人／月 中学校：0人／月
小学校高度情報化教育推進事業 中学校高度情報化教育推進事業 （教育総務課）	G I G Aスクール構想による学校教育の充実化を図ることで、新しい時代に向けた魅力ある大野市らしい教育を推進するとともに、時代に負けない「生き抜く力」「論理的な思考」などを培う。	I C T機器の活用に関する教員研修の実施回数 ○実績 令和4年度 3回 令和5年度 3回 令和6年度 3回 ○目標 令和7年度 3回
3人っ子給食費助成事業 [再掲：子育て（2）] （教育総務課）	保護者の経済的な負担軽減を図り、子育てを支援する。	○実績 令和6年度 認定者数 小学校 199人 中学校 79人
放課後児童クラブ事業 [再掲：子育て（2）] （こども支援課）	共働き家庭などの児童に対して、放課後等に適切な遊び及び生活の場を提供し、健全育成を図る。 長期休業中には、放課後子ども教室との交流事業を実施する。 小学校の余裕スペースを活用した放課後児童クラブの実施に向け、学校施設における運営方法を検討する。 併せて、サービスの標準化を目指し、放課後児童クラブ支援員と放課後子ども教室安全管理員の人事交流を実施する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 20,678人 令和5年度 24,889人 令和6年度 27,933人 ○目標 令和7年度 22,500人
放課後子ども教室事業 [再掲：子育て（2）] （生涯学習・文化財保護課）	公民館などで放課後における小学生の安全で安心な居場所づくりを行うとともに、地域の大人たちが学習や体験・交流活動を行い、地域の子どもたちを見守る。 長期休業中においては、放課後児童クラブなどと連携し、子どもの居場所づくりを行う。 小学校の余裕スペースを活用した放課後子ども教室の実施を検討する。	延べ利用者数 ○実績 令和4年度 21,470人 令和5年度 25,692人 令和6年度 26,659人 ○目標 令和7年度 26,000人

(3) 地域と学校が連携して子どもの育ちを支えます

- ①家庭や地域、学校、公民館の連携により、子どもたちの豊かな成長を支える「コミュニティ・スクール」を推進します。
- ②放課後児童クラブや放課後子ども教室など、子どもたちの放課後の居場所を確保します。
- ③地域による登下校の見守り活動を行うとともに、地域ならではの行事への参加や自然との触れ合いなど、子どもたちの人や自然と関わるさまざまな機会をつくります。
- ④地域の伝統行事や伝統芸能、伝統料理などを子どもたちに伝える活動を推進します。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
部活動地域移行推進事業 (教育総務課)	休日の部活動の段階的な地域移行を行うため、地域団体などと協議及び検討を行う。	休日の部活動の地域移行又は地域移行に係る協議の実施 ○実績 令和4年度 3種類 令和5年度 4種類 令和6年度 9種類 ○目標 令和7年度 9種類
教育指導事務経費 (夏休み子どもチャレンジ教室) (教育総務課)	夏季休業中、エキサイト広場を会場に児童の交流体験事業を行い、ふるさと大野に対する視野を広げ、愛着を深める。	地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査) ○実績
食育推進事業 (教育総務課)	子どもの食に対する関心を高めるとともに、保護者の子どもの食に対する意識の向上を図る。	令和4年度 小学校：66.8% 中学校：49.2% 令和5年度 小学校：81.6% 中学校：70.8%
ふるさと大野かがやき隊事業 [再掲：学び(1)] (教育総務課)	児童生徒が自らの地域の自然や文化、歴史などについて学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさとに誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。	令和6年度 小学校：83.6% 中学校：69.8% ○目標 令和7年度 小学校：84.0% 中学校：73.0%

魅力ある学校づくり推進事業 [再掲：学び（１）] (教育総務課)	児童生徒にとって、学びたい・通いたいと思える魅力ある学校づくりを行うため、各学校の特色を生かした授業の実施、不登校や問題行動などの未然防止及び魅力ある教員の育成に取り組む。	1,000 人当たりの不登校児童生徒数 ○実績 令和４年度 小学生：10.9 人 中学生：37.0 人 令和５年度 小学生：15.5 人 中学生：41.9 人 令和６年度 小学生：15.0 人 中学生：29.3 人 ○目標 令和７年度 小学生：4.8 人 中学生：16.3 人
コミュニティ・スクール推進事業 [再掲：学び（１）] (教育総務課)	保護者や地域住民などの学校運営への参画を推進するため、法律に基づく学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を各小中学校に設置、学校と保護者、地域住民などとの信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。	「学校が楽しい」と答えている児童生徒の割合 ○実績 令和４年度 小学生：91.7% 中学生：92.9% 令和５年度 小学生：91.9% 中学生：91.2% 令和６年度 小学生：91.1% 中学生：94.0% ○目標 令和７年度 小学生：95.5% 中学生：91.5%
放課後児童クラブ事業 [再掲：子育て（２）] (こども支援課)	共働き家庭などの児童に対して、放課後等に適切な遊び及び生活の場を提供し、健全育成を図る。 長期休業中には、放課後子ども教室との交流事業を実施する。 小学校の余裕スペースを活用した放課後児童クラブの実施に向け、学校施	延べ利用者数 ○実績 令和４年度 20,678 人 令和５年度 24,889 人 令和６年度 27,933 人 ○目標 令和７年度 22,500 人

	設における運営方法を検討する。 併せて、サービスの標準化を目指し、放課後児童クラブ支援員と放課後子ども教室安全管理員の人事交流を実施する。	
放課後子ども教室事業 [再掲：子育て（２）] (生涯学習・文化財保護課)	公民館などで放課後における小学生の安全で安心な居場所づくりを行うとともに、地域の大人たちが学習や体験・交流活動を行い、地域の子どもたちを見守る。 長期休業中においては、放課後児童クラブなどと連携し、子どもの居場所づくりを行う。 小学校の余裕スペースを活用した放課後子ども教室の実施を検討する。	延べ利用者数 ○実績 令和４年度 21,470 人 令和５年度 25,692 人 令和６年度 26,659 人 ○目標 令和７年度 26,000 人
いきいきわくわく学習事業 [再掲：学び（１）] (生涯学習・文化財保護課)	「大野市生涯学習推進計画」に基づき、子どもから大人までの全ての市民を対象に、生涯学習に関するさまざまな講座を、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館、職業訓練センターにおいて実施する。 併せて、人材活用登録指導者の育成・登録に取り組むとともに、生涯学習スタンプカードを普及させ、受講回数増を図る。	１８歳以下の子ども１人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和４年度 1.02 回 令和５年度 1.80 回 令和６年度 1.89 回 ○目標 令和７年度 1.45 回 市民１人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和４年度 0.67 回 令和５年度 0.88 回 令和６年度 0.74 回 ○目標 令和７年度 1.00 回



目指す姿

市民が、生涯にわたって主体的に学び、地域づくりに積極的に取り組むまち

(1) 地域を担う人づくりや生涯学習を推進します

- ①若者や女性をはじめ、より多くの人たちの地域活動への参加を促し、地域に必要な人材を育成します。
- ②公民館の行事や講座、地域団体の活動を通し、世代間交流を図ります。
- ③誰もが、生涯を通して時代に即した学習が行えるよう、生涯学習センターや公民館、図書館などが一体となって情報を発信し、学習の機会を提供します。
- ④大野市男女共同参画プランや大野市人権施策基本方針に基づき、市民への啓発活動や学習活動などを行い、男女共同参画の社会を推進し、人権を尊重する人づくりに取り組みます。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
青年活動推進事業補助 (生涯学習・文化財保護課)	地域に根ざした青年組織の活性化を図るとともに、組織での活動を通じて将来的に各地区で活躍できる人材の育成を図る。青年活動の活性化を通して、「若者の自然な出会い、交流の拡大」を図る。	補助件数 ○実績 令和4年度 2件 令和5年度 3件 令和6年度 3件 ○目標 令和7年度 4件
20歳のつどい開催事業 (生涯学習・文化財保護課)	人生の節目の年齢である20歳の市民を対象に、あらためて成人としての自覚を促し、ふるさと大野を見つめ直す機会とするため「20歳のつどい」を実施する。	○実績 令和6年度 R7.1月開催
人権同和教育推進事業 (生涯学習・文化財保護課)	人権及び同和問題に関する啓発や学習を通して、正しい知識を持ち、人権尊重の意識を高める。	人権講演会の参加者数 ○実績 令和4年度 80人 令和5年度 176人 令和6年度 90人 ○目標 令和7年度 100人

読書推進事業 (生涯学習・文化財保護課)	読書活動の推進と図書館利用の拡大を図るため、読書会や各種講座、図書館まつりなどを実施する。	講座などの実施回数及び参加者数 ○実績 令和4年度 454回 4,700人 令和5年度 461回 4,393人 令和6年度 426回 3,182人 ○目標 令和7年度 400回 4,300人
いきいきわくわく学習事業 [再掲：学び(1)] (生涯学習・文化財保護課)	「大野市生涯学習推進計画」に基づき、子どもから大人までの全ての市民を対象に、生涯学習に関するさまざまな講座を、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館、職業訓練センターにおいて実施する。 併せて、人材活用登録指導者の育成・登録に取り組むとともに、生涯学習スタンプカードを普及させ、受講回数増を図る。	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 1.02回 令和5年度 1.80回 令和6年度 1.89回 ○目標 令和7年度 1.45回 市民1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 0.67回 令和5年度 0.88回 令和6年度 0.74回 ○目標 令和7年度 1.00回

(2) 地域での交流を深め、支え合いを広げます

①地域の活性化や課題解決、住民の世代間交流などを進める事業を支援します。

②地域による登下校の見守り活動を行うとともに、地域ならではの行事への参加や自然との触れ合いなど、子どもたちの人や自然と関わるさまざまな機会をつくります。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
ふるさと大野かがやき隊事業 [再掲：学び(1)] (教育総務課)	児童生徒が自らの地域の自然や文化、歴史などについて学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさとに誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。	地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査) ○実績 令和4年度 小学校：66.8% 中学校：49.2% 令和5年度 小学校：81.6% 中学校：70.8% 令和6年度 小学校：83.6% 中学校：69.8% ○目標 令和7年度 小学校：84.0% 中学校：73.0%
部活動地域移行推進事業 [再掲：学び(3)] (教育総務課)	休日の部活動の段階的な地域移行を行うため、地域団体などと協議及び検討を行う。	休日の部活動の地域移行又は地域移行に係る協議の実施 ○実績 令和4年度 3種類 令和5年度 4種類 令和6年度 9種類 ○目標 令和7年度 9種類
青少年健全育成推進事業 (生涯学習・文化財保護課)	青少年育成大野市民会議に委託し、小中学校への見守り活動などの支援や研修会、啓発手紙、推進大会の実施などを通して、青少年健全育成活動の推進を図る。	○実績 令和6年度 青少年健全育成推進大会 7月開催

いきいきわくわく学習事業 [再掲：学び（１）] （生涯学習・文化財保護課）	「大野市生涯学習推進計画」に基づき、子どもから大人までの全ての市民を対象に、生涯学習に関するさまざまな講座を、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館、職業訓練センターにおいて実施する。 併せて、人材活用登録指導者の育成・登録に取り組むとともに、生涯学習スタンプカードを普及させ、受講回数増を図る。	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 1.02回 令和5年度 1.80回 令和6年度 1.89回 ○目標 令和7年度 1.45回 市民1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 0.67回 令和5年度 0.88回 令和6年度 0.74回 ○目標 令和7年度 1.00回
---	---	--

（３）地域住民が利用しやすい活動拠点をつくります

- ①地域づくりや生涯学習の拠点として、働く世代や子育て世代などあらゆる世代が公民館を利用できるよう運営方法を工夫し、地域住民が気軽に集うことができる身近な公民館とします。
- ②図書館の蔵書の充実を図り、市民の学習や情報収集へのニーズに対応します。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
図書館管理運営経費 （生涯学習・文化財保護課）	図書館の蔵書の充実を図り、市民の学習や情報収集へのニーズに対応するため、図書の貸し出しや図書館における読書環境の整備などの管理運営を行う。	市民1人当たりの年間図書館利用回数 ○実績 令和4年度 2.84回 令和5年度 2.98回 令和6年度 2.94回 ○目標 令和7年度 3.20回

目指す姿

市民が文化や芸術に親しみ、文化財や伝統文化が継承され、郷土の歴史や文化の魅力が発信されているまち

(1) 文化芸術の振興と継承を推進します

- ①文化水準の向上を目指し、文化活動の拠点となる新たな文化会館の整備について検討を進めます。
- ②市民が気軽に参加し、文化芸術に触れることのできる機会を創出します。
- ③市民の文化芸術活動への支援を引き続き行い、文化芸術の振興を促進します。
- ④地域の伝統行事や伝統芸能、伝統料理などを子どもたちに伝える活動を推進します。
- ⑤市内に所在する国や県、市の指定文化財などを良好な状態で後世に伝えるため、所有者や管理者の負担軽減を図ります。
- ⑥「大野市文化財保存活用地域計画」を策定し、計画に基づいた文化財の保存と活用を推進します。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
伝統文化伝承事業 (生涯学習・文化財保護課)	結の故郷伝統文化伝承条例に基づき、「おおの遺産」を認証し、地域に受け継がれてきた風習や伝統芸能の伝承、景観の保全等を図る。	結の故郷伝統文化「おおの遺産」の認証件数(累計) ○実績 令和4年度 23件 令和5年度 25件 令和6年度 28件 ○目標 令和7年度 30件
文化財保存活用地域計画推進事業 (生涯学習・文化財保護課)	「大野市文化財保存活用地域計画」を推進するため、文化財保存活用地域計画推進協議会を開催し、文化財の調査研究や保存・活用について検討を行う。	文化財保存活用地域計画推進協議会の開催 ○実績 令和4年度 1回 令和5年度 1回 令和6年度 1回 ○目標 令和7年度 3回(中間見直し含む)

小学校連合音楽会事業 (教育総務課)	児童の情操を豊かにし、他校生との 友情を培う。	○実績 令和6年度 11月開催
先輩に学ぼうアートドリーム事業 [再掲：学び(1)] (教育総務課)	大野市にゆかりのあるアーティストが小中学校を訪問し、講師として指導・実演し、児童生徒が文化芸術の世界に触れ本物に出会うことにより、豊かな心の醸成を図る。	アンケートに「よかった」「どちらかといえばよかった」と答えている児童生徒の割合 ○実績 令和5年度 小学生：97.0% 中学生：91.0% 令和6年度 小学生：97.0% 中学生：99.4% ○目標 令和7年度 小学生：97.0% 中学生：91.0% ※令和5年度までは、『「学校が楽しい」と答えている児童生徒の割合』を成果指標として設定(他事業参照)
いきいきわくわく学習事業 [再掲：学び(1)] (生涯学習・文化財保護課)	「大野市生涯学習推進計画」に基づき、子どもから大人までの全ての市民を対象に、生涯学習に関するさまざまな講座を、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館、職業訓練センターにおいて実施する。 併せて、人材活用登録指導者の育成・登録に取り組むとともに、生涯学習スタンプカードを普及させ、受講回数増を図る。	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 1.02回 令和5年度 1.80回 令和6年度 1.89回 ○目標 令和7年度 1.45回 市民1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 0.67回 令和5年度 0.88回 令和6年度 0.74回 ○目標 令和7年度 1.00回

(2) 文化遺産・自然遺産を保護し活用します

①文化財を保存継承するために、新たな文化財の発掘に努め、指定文化財などの増加を図ります。

②化石を産出する地層や淡水型イトヨとその生息環境などの自然遺産を保護し活用するため、研究機関と協力して調査研究と活用を進めます。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
文化財環境保全事業 (生涯学習・文化財保護課)	指定文化財の管理者に修理などに要する経費を支援することで、文化財の適正な管理を促進する。 また、文化財の価値や由来などを広報し、保護に努めるとともに活用を図る。	指定文化財保存修理等補助件数 ○実績 令和6年度 1件
化石保全活用事業 (生涯学習・文化財保護課)	化石産出地の調査を進め、大野市の化石と地層が持つ学術的価値を紹介し、化石資源の保全と活用を図る。	化石に関する企画展の入場者数 ○実績 令和4年度 977人 令和5年度 1,572人 令和6年度 1,733人 ○目標 令和7年度 1,300人
民俗資料館管理運営経費 (生涯学習・文化財保護課)	市指定文化財建造物である民俗資料館の適正な管理運営を行う。	博物館などにおける企画展や講座開催数 ○実績
歴史博物館管理運営経費 (生涯学習・文化財保護課)	郷土の歴史に関する資料の収集や保管、展示を行っている歴史博物館の適正な管理運営を行う。また、郷土の歴史に興味を持ってもらえるよう、講座や企画展を開催する。	令和4年度 9回 令和5年度 9回 令和6年度 9回 ○目標 令和7年度 5回

(3) 郷土の歴史や文化の魅力を発信します

①博物館などにおいて、展示や講座、講演会などを開催し、郷土の成り立ちや文化財、伝統文化に対する市民の理解を深めます。

②郷土の歴史や文化財、伝統文化を市内外に発信します。

➤ 主な事業と成果指標

事業名	事業内容	成果指標
いきいきわくわく学習事業 [再掲：学び（１）] (生涯学習・文化財保護課)	「大野市生涯学習推進計画」に基づき、子どもから大人までの全ての市民を対象に、生涯学習に関するさまざまな講座を、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館、職業訓練センターにおいて実施する。 併せて、人材活用登録指導者の育成・登録に取り組むとともに、生涯学習スタンプカードを普及させ、受講回数増を図る。	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 1.02回 令和5年度 1.80回 令和6年度 1.89回 ○目標 令和7年度 1.45回 市民1人当たりの年間生涯学習事業参加回数 ○実績 令和4年度 0.67回 令和5年度 0.88回 令和6年度 0.74回 ○目標 令和7年度 1.00回
化石保全活用事業 [再掲：文化芸術（２）] (生涯学習・文化財保護課)	化石産出地の調査を進め、大野市の化石と地層が持つ学術的価値を紹介し、化石資源の保全と活用を図る。	化石に関する企画展の入場者数 ○実績 令和4年度 977人 令和5年度 1,572人 令和6年度 1,733人 ○目標 令和7年度 1,300人
民俗資料館管理運営経費 [再掲：文化芸術（２）] (生涯学習・文化財保護課)	市指定文化財である民俗資料館の適正な管理運営を行う。	博物館などにおける企画展や講座開催数 ○実績 令和4年度 9回 令和5年度 9回 令和6年度 9回
歴史博物館管理運営経費 [再掲：文化芸術（２）]	郷土の歴史に関する資料の収集や保管、展示を行っている歴史博物館の適	

(生涯学習・文化財保護課)	正な管理運営を行う。また、郷土の歴史に興味を持ってもらえるよう、講座や企画展を開催する。	○目標 令和7年度 5回
ふるさと大野かがやき隊事業[再掲：学び(1)] (教育総務課)	児童生徒が自らの地域の自然や文化、歴史などについて学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさとに誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。	地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査) ○実績 令和4年度 小学校：66.8% 中学校：49.2% 令和5年度 小学校：81.6% 中学校：70.8% 令和6年度 小学校：83.6% 中学校：69.8% ○目標 令和7年度 小学校：84.0% 中学校：73.0%

施策展開に新たに加える3つの視点

◆ウェルビーイング

個人や社会のよい状態、心身ともに満たされた状態を指す言葉。

市民の幸福度や暮らしの満足度をはかるものさしとして組み入れ、住み続けたいまち、イキイキと暮らせるまちづくりの進捗を把握し、施策の改善や新たな施策の展開につなげていく。

◆シェアリングエコノミー

個人や企業などが持つモノや場所、スキルなどの資源を、必要な人に提供したり、共有したりする新しい経済の仕組み。

住民による共助型の移動支援、家族で余っている食品を寄付し食品ロスを削減するフードドライブの取組み、副業の推進などが挙げられる。

人口が減少する中、限られた資源を有効に活用するとともに、資源の共有や助け合いを通じた人と人との関わりを創出し、持続可能なまちづくりにつなげていく。

◆ジェンダーギャップの緩和

男女の性別によって生じる格差を無くしていくこと。

性別による格差や無意識の思い込みなどは、地方から女性や若者が流出する要因の一つとして挙げられている。

地域全体でこれらの緩和に努め、女性や若者の流出抑制を図るとともに、女性や若者をはじめ、誰もがもっとイキイキと暮らすことができるまちづくりにつなげていく。



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。